

日本各地の伝統工芸品紹介フリーペーパーの作成

各地の工芸品について詳しくなろう!紹介しよう!(※実際に配布・掲示します。)

提出物:A4 両面フリーペーパー原稿 (A4・2 枚=表面と裏面をコピー用箋に作成して提出)
調査用紙 (A4、書式・枚数自由:選択内容確認・調査内容評価のため) ※参考有
メ切:6月26日(金) メ切厳守

【規定等】

1. 日本の伝統工芸品リストの中から 1 つだけ選んで調査し、A4 両面で紹介するフリーペーパーを作る。

工芸Ⅱの教科書の P52・53に伝統工芸品が紹介されているので、記載の伝統工芸品からひとつ選んで調査し、フリーペーパーにします。選んだ伝統工芸品に対して、どのようにして作られているのか、特徴・魅力、その工芸品にまつわる歴史等を紙面にまとめて紹介する。その工芸品に興味を持ってもらえるように工夫すること。

フリーペーパーには編集責任者として、自分のクラス・番号・名前をフルネームで記載する。(表面枠内)
広告掲載欄として、裏面の枠内右下を3.5×9cm空けておく。(何も記入しない)

フリーペーパーとは・・・?

無料で配布される広告でない記事内容も含んだ印刷媒体のこと。通常は広告を載せてその広告料をもらって作ったり、地域情報として載せたお店などからの広告料をいただいて制作されていたりします。今回は京都八幡高校の広告(枠内裏面右下3.5×9cm)を載せます。冊子になっているものはフリーマガジンともいいます。皆さんには提出後、フリーペーパーを冊子にまとめて配布します。他の人がどんなフリーペーパーを作成しているか、お楽しみに。

美術Ⅱを履修している人は、美術Ⅱの教科書 P72～73 に文字組や紙面構成の参考になるものがあります。美術Ⅱを履修している人は教科書の該当ページ等を参考にしても構いません。無い人はインターネットで参考になるものを探しても構いません。

2. 下書き用紙にレタリング等もきっちり描き込み、校正まで終えてからコピー用箋を重ねてボールペン等でなぞる。

本番用紙のコピー用箋は印刷機での印刷ができる黒ペンのみで仕上げる。グレーの部分はクロスハッチングや点描などを用いて表現する等、墨 1 色で表現する。

完成原稿に色ペン(灰色・薄墨のペンも不可)や鉛筆の使用はしないこと。下書きの為に鉛筆やシャープペンシル等を用いてもよいが、提出前に消しゴムできれいに消し、印刷時に汚れが付かないように配慮すること。

A4 サイズのコピー用箋を使用するが、文章等の印刷が切れてはいけない部分は水色の枠内に収めること。印刷が切れてもよい部分は紙の端まで書くと紙面が大きく見える。紙面のデザインや構成の工夫も内容とは別で評価するので、手に取ってもらえるよう内容とともに工夫すること。

文章はコピー用箋の 1 マスを 1 文字で使用すること。ただし、フリーペーパーのタイトルや小見出し文字などのレタリングの部分についてはその限りではない。紙面のバランスを考慮し作成すること。

3. イラストや飾り枠等も使い、分かりやすく紹介する。※著作権に注意!!

イラストなどを描いて説明すると読んだ人が理解しやすく、興味を引く手立てにもなります。ただし著作権に配慮したものであること。既存のキャラクター等著作物は描き込んではいけません。

著作権違反になる様な行為は発覚次第、未提出扱いになります。一度提出しても、修正して再提出するまで提出を取り消しますので十分に気を付けること。文章にも著作権があります。丸写しは厳禁です!!

【手順】

- ① 教科書（P52・53）から、伝統工芸品を一つ選ぶ。
- ② 選んだ伝統工芸品について調査し、調査用紙（画像を参考に自作する）に調査した内容を記入していく。

インターネットで検索して調べてもよい。

インターネットで調べられない人は近隣の図書館に電話でレファレンスサービスを利用して参考図書を探してもよい。（※図書館は現在そのまま来館しても入れないところが多くなっています。事前に電話で図書を予約し、来館・または郵送で受け取るなどのサービスを行っていますので、近隣の図書館をチェックしてみましょう。）

調査内容をメモするのに紙が足りなければ、裏面や別の紙に書いても構いません。

- ③ 下書き用紙にタイトルや記事構成、飾り枠や余白、文章量の調整などしながら配置を決める。

下書きの時点で白黒のバランスが検討できるようにレタリング文字の内側など黒くする部分は軽く塗りつぶしておくようにするとわかりやすい。

全体のバランスや構成がおかしいと感じたら早いうちに直しておかないと後からでは手間がかかるので、都度、見なおしていくのが望ましい。

コピー用箋は紙が薄く下に敷いたものがうっすらと透けて見えます。レタリングは本番前の下書き段階できっちりかいておくと本番の時に用紙を重ねてなぞるだけで作成でき、消しゴム掛けの手間が無く、綺麗に仕上げることができる。下書きは本番の様に丁寧に。

- ④ 校正を行う。

誤字脱字、文章表現、段落やマス目の使い方のチェックを行い、訂正する。本番前にやっておかないと本番用紙を1から書き直しになってしまうこともあるので、複数回行い訂正箇所がないかチェックして修正を行う。

- ⑤ 原稿作成（コピー用箋）

訂正箇所が全て直し終わったら、コピー用箋を重ね（向きがあるので注意。水色の枠を合わせる。）、ボールペンでなぞる。幅の広い部分の塗りつぶし等にはネームペンを使用してもよいが、はみ出さないように輪郭をボールペンでなぞり、中をネームペンで塗るようにする。

失敗した部分は修正テープや修正液を使用してもよい。紙を貼ると用紙によっては貼った部分が分かってしまうこともあるので貼らないこと。

- ⑥ 鉛筆やシャープペンシル等でコピー用箋に描き込んだところがあれば消しゴムをかけて消す。

【評価について】

- 調査内容、文章内容は鑑賞点として評価します。

いろいろ調べてみて、どんなことを紙面にのせる方がよいか検討してから作成してください。

- フリーペーパーの原稿の仕上がりや段組み構成等に関しては技術点として評価します。

レタリングや段組み、紙面構成等見やすく、読み易く紙面が構成されているか。

白黒のバランス、飾り枠・フォント等の工夫。

- フリーペーパーへの人を惹きつける工夫については発想点として評価します。

両面構成ですので、それぞれの面にどんな情報があるとよいか、整理してからデザインするように心がけましょう。紙面にのせる情報内で、

・どんな順番で読んでもらえばわかりやすいか

・読んでもらいたい順番で読んでもらうためにはどんな配置がよいか。

・情報の優劣（大切さの順番）はどうか（注目してほしいポイントなど）

を整理してからかいてみると全体としてまとまった良いフリーペーパーになります。

担当都道府県番号	選択した 伝統工芸品	学年	組	番号	名前

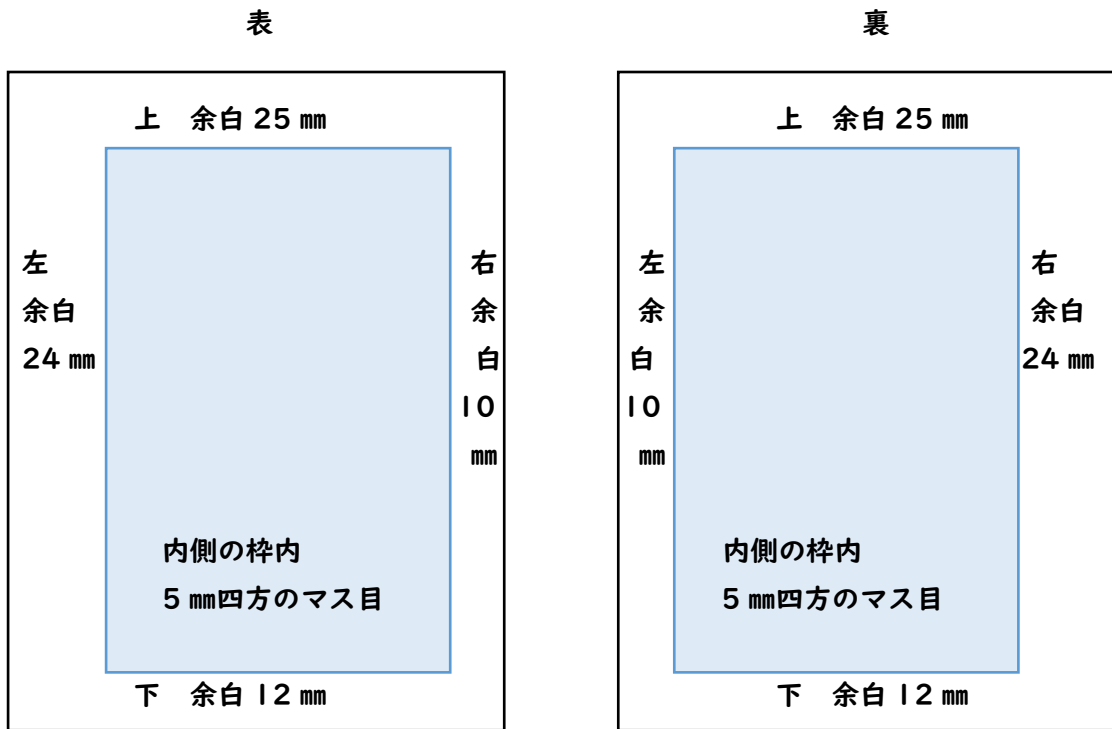
調査内容記入欄（絵図や表などで表現してもよい）※足りなければ裏面や別紙に記入し添えても構いません。

※フリーペーパーに記載する文章だけでなく、どんなフリーペーパーにしたら雰囲気が伝わるかデザインのヒントになりそうな特徴などもメモしておくでデザインしやすい。

【コピー用箋について】

自宅にないと思いますので下書き用紙を自作してください。薄い色のペンで線を引くと下書きしやすいです。

A4 コピー用紙を二枚用意して、以下のように作成してください。



※裏面の水色の枠内右下に広告を載せるスペースをあけること。サイズは35mm×90 mm。

※本番用のコピー用箋は配布予定です。